

CASE
30県内正規ディーラーの社会事業として使用済み自動車からバッグをつくる
～使用済み自動車再資源化プロジェクト～

実施主体・組織

- NPO法人山形自動車公益センター
- 山形県自動車販売店協会
- 株式会社山形県自動車販売店リサイクルセンター

プロジェクト概要

平成21年、山形県の自動車ディーラーがNPO法人山形県自動車公益センターを設立。エコカー普及推進、エコドライブ普及推進、エコ整備促進、交通安全推進活動、環境マイスター認定制度への支援事業、自動車リサイクル再資源化等研究開発、地域・産学連携事業の推進、地域福祉活動の8事業に取り組む。

課題

・使用済み自動車の処分問題

効果

・地域のさまざまな事業者が強みを生かして、新商品を開発

使用済み自動車エアバッグやシートベルトをリユースして、ビジネスバッグを開発

NPO法人山形県自動車公益センターは、県内の事業者と協力して、使用済み自動車を解体してその材料から、かばんなどを製造している。山形県内の自動車ディーラーが設立した株式会社山形県自動車販売店リサイクルセンターは解体工場を持ち、使用済み自動車のリサイクルや廃棄事業に取り組んでいる。この会社が環境への取り組みを積極的にすすめるためNPO法人を設立した。

本プロジェクトは、さまざまな事業者が困難をのりこえ、協力しあって、商品開発にこぎつけた。解体工場の現場では、自動車からエアバッグやシートベルト生地を簡単に取り外せないという問題に

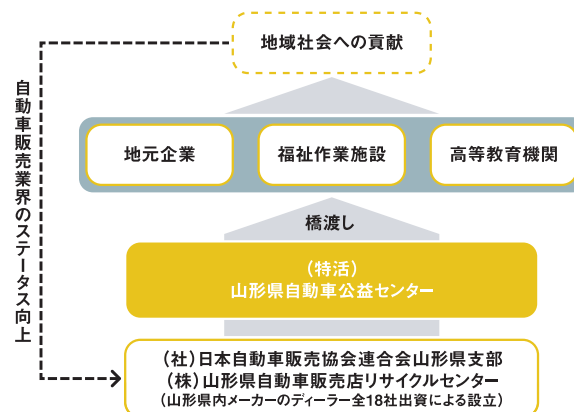
対し、環境への取り組みの重要性を説いて、困難な作業をのりこえてもらった。そして、地元の染色会社、かばん製造業者、福祉作業所が連携して、ビジネスバッグを開発。テレビや新聞や雑誌に取り上げられ、全国からバッグの問い合わせが舞い込んでくるようになった。その結果、解体工場では、捨てるためではなく、新商品をつくるために材料を取り上げていることが認識され、現場の士気が向上するという効果があった。

今後は、喫緊の課題であるレアメタル・レアアースの再抽出を実施し、新商品を開発していきたいと考えている。



自動車からリユースされたビジネスバッグ

ビジネスモデル



POINT

- 業界団体が一体となって3R (Reduce:減らす / Reuse:繰り返し使う / Recycle:再資源化) 活動に取り組んだ
- 使用済み自動車(ごみ)を地域資源として活用し、新商品の開発まで実現
- 企業が専門NPOを自ら設立することにより、社会貢献を推進